

ユーラシアンクラブ ニュースレター/心はいつも旅する 加藤 九祚

ユーラシアンホットライン

ウズベキスタン、ウイグル、モンゴルの女性民族舞踊
『シルクロード、アジア舞姫の饗宴』公演の成功にお力添えをお願いします

春のブハラ サシマコム来日特別公演では大変お世話になりました。

ユーラシアンクラブではこの公演の成功に引き続き、ユーラシア・シルクロードの音楽芸能を紹介すべく準備を進めてきました。の方々のご協力案内の舞踊を中致しました。

ご案内のよう育が変わりまし諸民族の舞踊やとが求められよ演はウズベク、民族舞踊をご覧活躍した民族のを感じ取って以後のあり方の参ております。

みなさまのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。



幸い、ウズベクをはじめ出演者が得られましたので、別紙にご心にした公演を開催することに

に、今年度から中学校の音楽教た。同じように舞踊でも世界の日本の伝統舞踊を対等に見るこうとしています。今回の舞踊公ウイグル、モンゴルの伝統的な頂き、シルクロードやアジアで伝統的文化の類似性や違いなどただくとともに、日本舞踊の今考にもして頂ければ幸いと考え

2002年7月19日(金) 19:00 開演板橋区立文化会館小ホール

出演 シャフリゾダ(ウズベキスタン)グリザール(中国・新疆ウイグル自治区)サルナ(中国・内蒙古自治区) ウメル・ママット(中国新疆ウイグル自治区) 他特別出演

前売券：一般 3,000円(当日 3,500円)大学・高校生 1,000円(当日 1,500円)在日留学生無料

~~チケットお申し込み先~~

特定非営利活動法人 ユーラシアンクラブ E-MAIL PAF02266@mifty.ne.jp 東京都渋谷区代々木2-13-2第一広田ビル TEL/FAX 03-5371-5548 送金方法：郵便振替で口座名ユーラシアンクラブ 口座番号 00190-7-8777 振替用紙にアジア舞姫一般またはアジア舞姫学生と記入しご送金下さい。払込金受領書をお持ち頂き受付でチケットと引き換えます。

留学生フォーラム2002 『日本と留学生の国々の、暮らしと文化』

ユーラシアンクラブでは、留学生同士の更なる理解・親睦向上を目指した『留学生フォーラム2002』を下記の日程で開催致します。この会では同時に、留学生と日本人との親交を深める場になればと願っております。どうぞお問い合わせの上、ご来場下さい。

6月29日(土) 14:00より 駒込和装学院 JR山手線『駒込駅』東口改札下車徒歩2分

テーマ：『日本と留学生の国々の、暮らしと文化』

内容：☆伝統衣裳『きもの』にみる日本の文化 <駒込和装学院> (実物を紹介し解説します)

☆留学生スピーチ イラン、ウズベキスタン、トルクメニスタン、パキスタンの留学生

参加費：留学生 無料 / 日本人・一般 500円 主催：ユーラシアンクラブ

連絡先：ユーラシアンクラブ〒151-0053 渋谷区代々木2-13-2 第一広田ビルTEL/FAX: 03-5371-5548 富島 悠平

Tojima Yuhei (留学生フォーラム担当) M.P: 090-6127-7910 E-mail: yuhey@t.toshima.ne.jp 余野 瑛子 Yono Momoko M.P. 070-5573-1863

旅行募集

アムールの自然を満喫、先住民族との交流の旅
ロシア・ハバトフスク近郊の村シカチャリヤン、クラスニヤールを訪ねる8日間
旅行日程：2002年8/16金～8/23 費用：130,000円

耳を澄ますと白樺の幹を走る生命の水音が聞こえます。もちろん鳥や小動物の鳴き声も。人工の音や光のない世界、人間を自然によみがえらす世界、それがアムールの大自然です。

鬱蒼とした大森林での森林浴、灯のない夜空で満天の星の観察、アムール川やビギン川での鯉や鱒、イトウ釣りなど、日本海対岸ロシア沿海州の大自然を満喫します。

日本人と顔かたちが最も近い民族ナナイ、ウデゲの人々。彼らの家に分宿して、家族とともに寝起きし食事し、サウナに入ります。小学校を訪問しことばや歌、踊りなどを交流します。お互いの類似や違いを発見、再発見する驚きと感動の旅になるでしょう。

主な訪問先：ハバロフスク、シカチャリヤン村、約10,000年前の岩絵、アムールの中州、クラスニヤール村、ビギン川上流セバンタイの猟師小屋及びそれぞれの小学校など。

企画：特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ 主催：トラベル世界

★シカチャリヤン・ロシア極東のナナイ民族の村★

アムール川に依存してきた先住民族ナナイ。ハバロフスクから北東70キロ。1万2千年前に遡る集落遺跡「ガーシャ」や、岩絵（ペトログリフ）に寄り添うように、東岸の丘にシカチャリヤン村は広がっている。広さ473ヘクタール。人口300人。村に唯一の学校では40人の小、中学生が学ぶ。子供たちは大切にされている。親近感を感じるさわやかな笑顔。「（アムールの魚は尾を）フルフルして、パクパククウ（食う）」と歌う。ナナイ語もナナイ人も、私達とその言葉によく似ている。沿海州のウデゲ、アムール下流のウリチ、中国東北部のホジェンやオロチョン、シベリアのエベンキ等の先住民族の仲間で、太古の昔から日本人の形成に関わる人々であった。現在、村に産業はなく、狩猟、漁労が暮らしの支え。

～先住民族村の住民と交流しながら村おこしに本格的に取り組めます～

ユーラシアンクラブ創設以来の課題であった先住民の自立支援事業に本格的に取り組めます。

新潟空港から75分。ハバロフスクから90分と、日本人にとってユーラシア大陸で、空間的にも文化的にも最も身近な先住少数民族村シカチャリヤンは、これまで多くの方々の協力で、山菜加工のセミナーを開催したり、中古ミシン40台を搬送し、民族デザインを活かした縫製工場を立ち上げる努力をしたりなどが行われてきました。しかし活動拠点となる用地管理が不安定だったことでこの3年ほど活動が停滞していました。このほど、用地の利用が法的にも安定したことを受けて、シカチャリヤン村に「コミュニティキャンプ管理委員会」、ユーラシアンクラブ内に「コミュニティキャンプサポート委員会」が発足、毎月1回、サポート委員会のミーティングを重ねながら、現地住民の管理のレベルを上げていくことになりました。当面7月中にも、村内に2箇所しかない井戸（地下150メートルからポンプアップ）を改修し、用地内の施設に着いても、段階的に補修・建設を行いたいと考えて、伝統的漁労産業振興や伝統文化継承を目指すシカチャリヤン住民の自立と支援活動に取り組む参加者の交流拠点として整備します。将来は、極東少数民族芸能祭の開催地とするなど先住民族の交流拠点としてなることを期待しています。このため皆様に1口1万円の募金をお願いします。

ユーラシアンクラブ	代表	大野	遼
シカチャリヤンコミュニティキャンプサポート委員会	委員長	木野	保幸
同	幹事	村松	靖人
同	幹事	井口	隆太郎
同	幹事	高橋	一夫

旅行募集

シルクロード・ウイグルのオアシス都市を訪ねる旅

～暮らしに直に触れ歴史、文化を知り、親睦を図る～

旅行日程：2002年9/12木～9/18水 費用：未定

新疆ウイグル自治区を訪ね、シルクロードの要衝・タクマカラ砂漠の北、天山南路北道のオアシス都市を車でたどり、ウイグル人の暮らしや歴史、文化に直に触れ、親睦・理解を図る旅です。この道は仏教伝播を跡付けるルートでもあり、仏教遺跡が点在し、伎楽天、飛天などの貴重な壁画が残っています。龜茲楽と呼ばれる歌舞も有名です。この旅ではウイグル語の授業参観や民俗音楽・舞踊にふれ、民家に泊まりウイグルの人々の暮らしに直に触れ、親睦を図る機会とするものです。

おもな訪問先：ウルムチ・自治区博物館、天池、カザフ族の牧場。トルファン・火焰山、高昌城跡、葡萄溝、カレーズ等。コルラ・自治州博物館、鉄門関。クチャ・キジル古城 キジル千仏洞で伎楽天、飛天、臥仏画など。クズルガハ烽火台、スバシ城跡。カシュガル

企画：特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ 主催：トラベル世界

加藤 九祚先生、満80歳の誕生日にウズベキスタン友好勲章を授賞

加藤先生が、満80歳の誕生日を迎えた5月18日、ウズベキスタン政府から「友好勲章」を、テルメズ市から「名誉市民」の称号をそれぞれ授与されました。5年前、アフガニスタンに面した国境の町、テルメズ市に活動拠点となる「加藤の家」を構え、軍事基地内にある仏教遺跡カラテペをウズベキスタンの考古学者と共同で発掘調査を続けています。これまでに、ストゥーバ（仏塔）を中心とした大掛かりな寺院が姿を見せつつあり、クシヤン文化の広がりや日本文化に影響を与えた北伝仏教解明につながると期待が高まっています。友好勲章は、旧ソ連時代から続く、学術交流と研究活動に対して授与されたものですが、「テルメズ名誉市民」の称号も含め、アフガニスタン空襲や新興国家の確執さえ危ぶまれる中で、勇気ある平和活動が評価されたという意味も持っています。おめでとうございます。

カラテペ遺跡発掘支援のベルトコンベア4台ウズベキスタン到着

乾燥した土壌に埋もれたカラテペ遺跡発掘の作業軽減と効率化を目指し日本から搬送されたベルトコンベア4台（1トン）は、4月末、ウズベキスタン空港に到着しました。保税倉庫に保管されていたため実際に目にする事ができませんでしたが、空港税関の担当者及び関税業務の責任者と面会し確認しました。ベルトコンベアは当初、カラテペ遺跡のウズベキスタン側責任者であるピダエフウズベキスタン国立歴史博物館副館長宛に搬送されましたが、学術調査支援の機材として扱うために受取人を「ウズベキスタン考古学研究所」とすることで合意、発掘現場での円滑な運用のため受取人の変更を記した実務文書を作成しました。この結果、今後はウズベキスタン考古学研究所（ピダエフさんは研究所のタシケント支部責任者）を窓口とした税務処理が行われ、受け取り側の財政負担が解消されました。

今回の搬送では、寄贈者の玉川文化財研究所代表戸田哲也氏、搬送業務ではアイワ軽急社長樋口直正氏、搬送費用では中央ユーラシア調査会代表幹事田中哲二氏、中央アジア研究所（小池百合子代表）、薬師寺内の「テルメズ仏跡発掘調査後援会」、等のほか、ウズベキスタン政府・外務省、ウズベキスタン大使館、ウズベキスタン航空など多くの方々のご協力をいただきました。ここに名前を記しお礼を申し上げます。ありがとうございました。

<コラム> 伝統料理・プロフの食べ方

ところでイスマトフ家で御馳走になった美味しいプロフの食べ方である。プロフは冠婚葬祭には必ず食べる伝統料理で、男性が調理する。にんじん、たまねぎ、こめ、羊肉、干し葡萄を混ぜて炊き上げたピラフのようなもので、すこぶる美味しい。

本来の食べ方はスプーンなどは使わず、手で食べるのだそう。親指、人指指、中指、薬指の4本でプロフを押さえる

ようにして、口に入る大きさに固める。その下に親指を入れ、親指ではじくようにして口に放り込む、というものだ。われわれは何回か教わり、学習したが中々思うようには出来なかった。手で食べるのは日本人に馴染みがないと思いがちだが、箸は手で食べたほうが美味しい。あれと同じで手で食べたほうがなんとなく美味い感じがした。気のせいだけではなさそう

私たちは4月30日から5月7日までウズベキスタンを旅行した。タシケント、サマルカンド、ブハラなどを訪ねたが、加藤先生の誕生を祝い、発掘を激励する旅でもあった。

カラテパ発掘の前線基地・加藤ハウス 5/01 木 タシケント空港からテルメズへ。早速加藤先生の家を訪ねる。市内の加藤宅では加藤先生をはじめ、カラテパ遺跡発掘のウズベク側代表のピダエフ(タシケント歴史博物館副館長)さん、奥さんの定子さん、浦城さんご夫妻、砂金さんたちが出迎えてくれた。先生は血色も良く大変お元気だった。ここ加藤先生のお宅・通称加藤ハウスに二晩お世話になることになった。加藤ハウスは広い中庭をコの字型に囲むウズベクの伝統的な家屋を改造したもので母屋、キッチン、食堂兼ミーティングスペース、離れ、お風呂、物置、トイレなどが中庭を取り囲んでいる。加藤ハウスは発掘期間中の加藤先生、ピダエフさんたちの居住の場であり、発掘の前線基地、司令塔で、発掘方針などの協議の場でもあるようだ。午後、トルクメニスタン国境に近い岩塩の山・ホジャイコン見学に向ったが、紙数の関係で省略する。

80歳は傘寿です 加藤ハウスに戻ってから、日本から持ってきた日本酒を中心にして加藤先生の誕生祝をした。みんな何がしかの隠し芸をすることになり、先生の『アザミの歌』などで大いに盛り上がった。出色は同行したSさんの傘寿に合わせた謳いと踊りである。艶やかな声とこぶし、傘を使った踊りは、満80歳の傘寿にふさわしい演し物だった。

仏教遺跡カラテパ ファヤズテパ 5/02 木 昼食後、陸軍演習場の中にあるカラテパ遺跡を見学。遺跡はアムダリアに面し、中州の先はあのアフガンである。見学にはずっとウズベク軍の兵士がつき、アムダリアにカメラを向けることを厳しく禁じられた。カラテパは広大な面積を持つクシャン時代の仏教遺跡で、北丘、南丘、中丘と3カ所に分かれている。今回の発掘では北丘からスツーパー(仏塔)が出土しており、廻りには基壇を囲った柱の台石がきれいに出ていた。発掘現場のそばにはゾロアスター教の礼拝場跡と見られる遺構もあり、テルメズの民族の興亡と宗教の重なり的一端を垣間見ることができる。

遺構は日干し煉瓦で出来ており、中には日干し煉瓦の跡がくっきり出ているものもあるが、大部分は雨や風で崩れ、分かりにくい。壁は何処まで続き、床面は何処まで掘り下げれば良いのか、日干し煉瓦の建物跡と泥との境界を見分けるのは至難の技と言える。長年の経験と知識から仮説を立てて進み、手直しした進む、という作業の連続であろう。

2日の日中温度は35度。砂地での体感温度はおそらく40度を超えるだろう。日を遮るものがなにもない全く過酷な作業である。ソ連時代に発掘し、その後打ち捨てられたままに風雨に崩れ掛けている南丘を見た。ここでは、日干し煉瓦で創った遺構もあるが、中には砂岩を練りぬいた大規模な洞窟遺構もあり、北丘より規模がかなり大きい。

すぐ近くにタシケント歴史博物館にある釈迦如来像が出土したファヤズ・テパがある。現在は基壇とスツーパーが剥き出しになっており、わずかにスツーパーの上に庇がさしてあるだけである。ここも日干し煉瓦で出来ており、基壇の廻りの僧房跡などは相当風化が進んでいるが、基壇の表面には、太陽の光の加減で日干し煉瓦の跡がくっきりと見える。貴重な遺構の現状であるが、このまま放置すれば、日を置かない内に崩れてしまうのではないかと心配である。

告知「ユーラシアンフォーラム～世界を理解するための情報のセレクション～」を実施します

会場は早稲田大学文学部第七会議室。準備会を7月6日(土)午後2時から開催します。

ご希望のはファックスでお申してください。「21世紀はどう読めるか」をクローズアップするのを目的に、ボランティアスタッフや専門家とミーティングを重ね、公開のシリーズセミナーと情報交換を実施する。

シリーズセミナーとして「欧米先進諸国と紛争地」①「新植民地主義」②「資源と紛争地」③「米国論と国連」「紛争とメディア」①「CIA,ISI,英国諜報部等、諜報機関の起源」②「エシュロンと情報通信」③「インターネットから見える世界」「紛争地の今」①「アフガニスタンその後」②「チェチェンは今」③「パレスチナとイスラエル」「宗教、民族、国家と紛争」①宗教はなぜ成立し、分派ができたのか、などを検討中です。
開催日時第一回9月28日(土) 第二回 10月26日(土) 第三回 11月16日(土)

(発行) NPO 法人ユーラシアンクラブ (発行人) 大野遼 (編集人) 井出晃憲
住所: 〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-13-2 第一広田ビル
電話/ファックス 03-5371-5548 E-mail: PAF02266@nifty.ne.jp
homepage: <http://homepage1.nifty.com/EURASIANCLUB/>